

春の部優秀賞十首

ねころ なが くも
寝転びて流れる雲に
おも よ しじん ごと
想ひ寄せ詩人の如く
こと はつむ
言の葉紡ぐ

盛岡市 河野 康夫

「おばんです」
そぼく
素朴なひびきのあいさつに
くちもと もりおか
口元ゆるむここは盛岡

盛岡市 丹波 ともこ

はなみ
花見とて
かず めいしよ
数ある名所 めぐるとも
はな いしわりぎ「くら
いとしき花は 石割 桜

盛岡市 村井 洋美

やはらかな雅樂の調べががく しら

聞く如く盛岡弁をきごと もりおかべん

耳に留めぬみみ とど

埼玉県北葛飾郡 小野寺 史子

浅春のせんしゆん

北上川の辺にてきたかみがわ ほどり

心の澱をひとつ棄て去るこころ おり す さ

埼玉県北葛飾郡 小野寺 史子

病い越へこの地に踏みしやま こ ち ふ

我が身体 桜のごとしわ からだ さくら

淡く色づくあわ いろ

宮城県栗原市 千葉 洋子

じやじや麺のめん

老舗の前に座りいるしにせ まえ すわ

真白な猫に白と名付けるましろ ねこ ぱい なづ

雫石町 小地沢 和志

あのははあん 不來方風を
あびたなら 眠むくなつたり
緩くなつたり

宮古市 木村 徹

たくぼく

啄木の

うた ひ しょうごま ひ
短歌に惹かれし少女の日
やそぢちか わか ひ こ
八十路近きも若き日を恋ふ

群馬県富岡市 横田 久子

こ じりつ

子も自立

くろう つまつ
苦勞をかけた妻連れて

えがおわ

笑顔湧きだすもりおかの旅 たび

米沢市 松谷 忠和

〔講評〕 旅先で短歌を詠む心のゆとりを持ち、更に応募するところまでもつていくのは、大変なエネルギーが要ると思います。旅行者に限りませんが、応募数から見ても、短歌を好きな人が沢山いらつしやると分かります。嬉しい限りです。

平成二十五年六月選 春の部

投稿数 百二十七首

選者 松田 久恵 氏